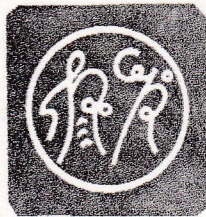
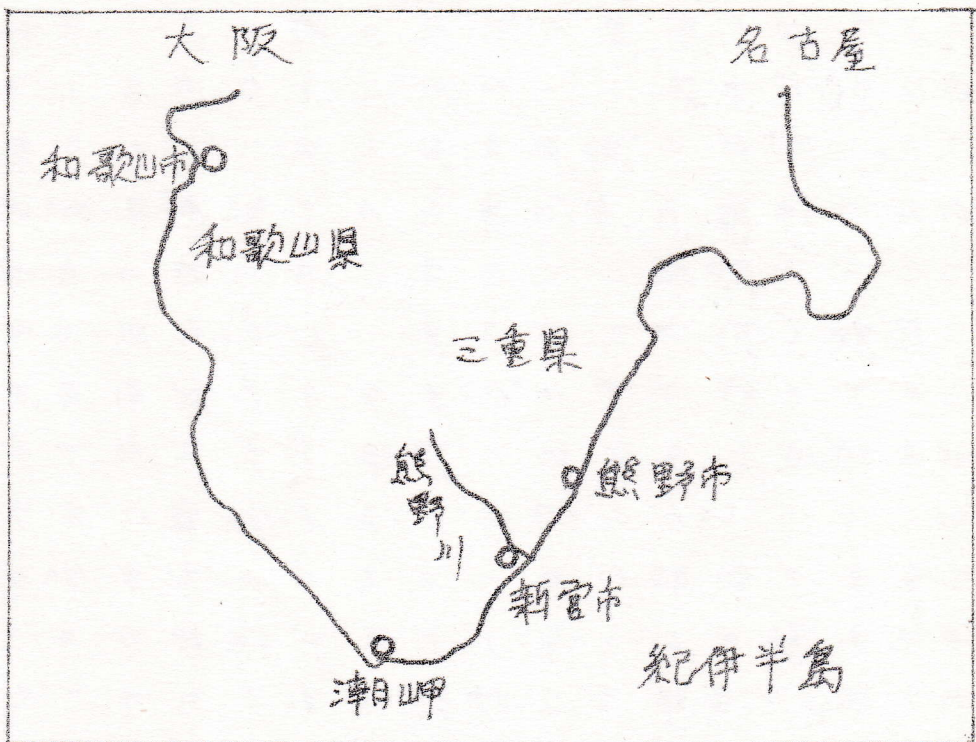


会報



1985年



日本GAP紀南会

*** 明けましておめでとう***

—— はじめに ——

この紀南地域に一つの「知らせる運動」の活動が静かに初まろうとしている。

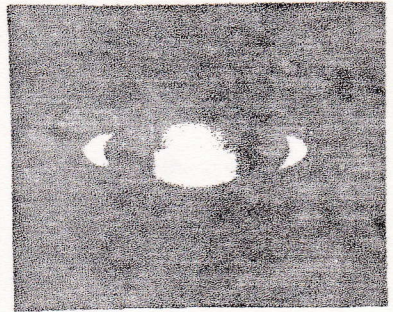
年頭の1月27日に日本A P紀南会の月例会が和歌山県新宮市内で3名ながら行われた。「生命の科学」で述べているように「惑星の形成」の様に集った私達はダストストームのごとく進展して来た。昨年の「静岡支部大会」で「松山支部」代表の伊藤氏が「日本A P紀南支部をつくって頑張る。乙下さん。」あの時の言葉に感動し、削みたになりました。今回はここまで行かずに「日本A P紀南会」が紀南地域に、学術的な躍進すれば何方か起こることをと確信します。私達の会は、三重県と和歌山県にまたがり、七里御浜や枯木灘のようなリアス式海岸がありありあい温暖な土地柄です。これこそまさや水ながら活動していきなれと思ひますので、日本A Pの会員の方々久保田先生どうぞよろしくお願いいたします。

(1)

初めての月例会に思う

松口幸え助

初めは2名で行うつもりでしたが松口君(侯希望)が遠方からこられ急きよる名になった。一人増え内部から嬉しさ湧き起こる。都合で場所を急いで検索。知人の食堂の奥さんに心よく奥座敷を借して下った。久保田先生の講演テーマは真掬になって聴いた。テーマを終えて、テレパシーも内部の印象に従うことなのか等と話し合う。テレパシー練習はゼナカード25枚一組を使用する。みんな初めてでしたので真掬ののりでしたがすぐ和やかになる。それで今年の目標を小さくをがすも決める。



(テレパシーの開発)

知らせる運動を強力にする

テレパシーの開発は日本今APにおいて、急務になっている。私達はまだまだ手さぐり状態であるが、それなりにやっています。つまり、これは日常生活に応用しなければならぬこと(2)

います。"知らぬ王運動"は、機関誌の委託販
で手電的なオルをとおすのを覚悟
し輪を広げたいと思います。その他にも
やり方があふと思います。--- 田舎で
少人数ではなく、もっと活発にやりたい
と思うのです。そして寄贈運動です
わすれなから日本GAPを盛り上
げていきたいと思ひます。



第1回1月月例研究会



日時 1月27日(日) RM1:00~RM4:30

場所 和歌山県新宮市 市内「女万食堂」奥座敷 於

参加者3名 松口、木川、木通D(会希望)

内容 日本GAP休田会長 テレパシー開発法、1月

講演テープ公開 座談会

テレパシー系車習

→ セナ オード 25枚 / 組

1回づつ 結果

H氏 正解 25パーセント

M氏 " 17パーセント

O氏 " 13パーセント

(3)

会 究 研 例 月 会 紀 南

楽しく、夏頃にヤマガタスライムの
採集と愛護をめざして、語り合いな
がら、限りなく争争的人間の成長を
めざし、意見交換と活発に行っていま
す。夏而目な採集者のいふ参加をお
待ちしています。

・ 毎月第4日曜日 1時15時

・ プログラム

東京月例会の久保田会長の「テレビンター開
発法」解説講義、テラ公開、テレビンター
練習、質疑応答、その他座談

・ テキストとして、採集者の訪問者
と「テレビンター開発法」(文夕書目録)
をお持ち下さい。

編 集 後 記

〇一九八五年がスタートし、そろそろ次に紀南会
でスタートしました。日本GAPの躍進
と共に頑張りたいと思います。少くも
地球の平和のためになつていきますように。

〇 おおむね力で、手さぐり状態ですが、久
保田先生がおしやっていますように、宇山電(4)
的に洗練したものにしたいと思ひます。
で本誌の感想やご投稿をお待ち
しております。どうぞよろしくお願いしま

1985.1.28 行
日本GAP紀南会報1号
編集発行人 松口幸之助
発行所 日本GAP紀南会
〒510 三重県津市津島町紀南会報部
〒510 三重県津市津島町紀南会報部